

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成23年11月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072000336		
法人名	医療法人 幾嶋医院		
事業所名	グループホーム ゆとり庵		
所在地	福岡県柳川市田脇760番地1		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開設当初から利用者様たち御自身で書き記された「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き人として愛され人生を全うしよう」という言葉を大切に、皆の集まるダイニングの壁に貼り毎日全員で読み上げながら胸に刻んでいる。また、個人を大切にしたいうえで、利用者九名を一つの家族と考え、お互い出来ることをし、助け合いながら生活している。医療との連携を取り、スタッフが観察したことを医療側に毎日報告している。食事の面でもうす味を心がけ糖尿食や貧血等個人の状態に合わせた味付けや食事形態にも注意を払い健康管理を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“ゆとり庵”は幾嶋医院と同じ敷地内にあり、四季折々の木々の中には散歩コースも作られている。2つのユニットの造りは異なるが、ご利用者が“ホームの主(あるじ)”とされていることは共通で、外部評価当日も、ご利用者の方々がホーム内を陽気にご案内して下さる姿が印象的だった。院長先生は、症状に応じて漢方薬を処方し、ご本人の不安や混乱を早期に緩和する治療が続けられている。職員も、ご利用者の喜怒哀楽を愛を持って受け止め、少しでも穏やかな気持ちで過ごせるよう、全員で検討が行われており、23年度からは、手などをゆっくりマッサージする“タクティールケア”も取り入れている。言葉が増え、表情が穏やかになるなど、効果も表れてきている。ホームでの生活が長い方もおられ、この2年間で8名の看取りケアが行われた。施設長は常々“人は傷1つない身体で生まれてくる。だから亡くなる時も傷1つない姿で・・・”という言葉で職員に伝えてこられた。夜中に亡くなられた場合も、職員全員が駆け付け、全職員でお見送りをされており、“一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう”という理念が、日々の生活の中で大切にされているホームであった。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の祭りや運営推進会議にて地域の方々の意見を伺ったり、ゆとり庵の様子をみてもらったりしている。ゆとり庵からも本源業を見に出かけたり、地域の敬老会に参加、地域の運動会にも応援に出かけている。	「一日一日を大切にあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」をご利用者も一緒に唱和している。ご利用者の気持ちと共に、それぞれの人生の喜怒哀楽にも寄り添い続けている。タクティールケアを取り入れたことで、傍らにいた時間が長くなり、言葉が増え、穏やかに過ごされている方も多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、事務長は以前この地区の住民であり、施設長、理事長も地区住民であることから、日常顔を合わせれば挨拶や短い会話等は行い、施設長は町内会、婦人会に入っている。	昭代地区の運動会の応援や敬老会、公民館文化祭に参加したり、七ツ家地区の秋祭り子供神輿や風浪神社秋祭り、芸能大会等にも参加しており、地域の方々との交流を楽しまれている。気候が暖かい時には、医院の前に椅子を並べ、ご利用者と一緒に小学生の登下校の見守りをさせて頂いている。	今後も、地域の行事に参加していくと共に、地域の方や子供たちに、ホームに来て頂きたいと考えている。子供会などに働きかけ、一度ホームに遊びに来て頂けるような取り組みをしていく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の場で質問を受けたり、認知症に関する簡単な講義を行っている。また、施設症は依頼を受け地区の集まりで認知症に関する講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やスタッフの移動、行事やヒヤリハット、事故等の報告、認知症についての話などについて、質問に答えたり意見をうかがっている。	年6回開催している。婦人会会長にお願いした所、副会長も参加頂ける事になった。災害時の対策等の意見交換と共に、介護保険制度や認知症、口腔ケアの勉強会も行われている。参加者の方とも顔馴染みになり、地域行事でお会いした時も、気さくにお話ができている。地域情報も頂け、有意義な会議となっている。	今後は、会議の中で意見交換されている内容を、より具体的に議事録に残していくと共に、ご利用者の方々も、無理の無い範囲で会議に参加して頂く機会を増やしていきたいと考えられている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の場で報告し、話し合っている。	施設長や管理者は、更新申請等もあり、月1回は市の窓口を訪問し、情報交換を行っている。以前からホームが提案してきた、“地域の徘徊ネットワークの構築”についてもお願いしており、今後も更に実現に向けた検討を続けていけたらと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年最低1回は身体拘束についての内部研修を行い、外部研修を受講した時は伝達講習を行っている。	ご利用者の不安等に寄り添い、不穏状態を緩和するためにタクティールケアも導入している。ゆっくりと手のマッサージを行う事で、穏やかな表情になられる方も多く、他のご利用者からも「私も…」と催促される場面も見られている。日中は玄関の鍵を開けており、職員と一緒に外の散歩も楽しませられている。	左手の指を口に入れてしまい、爪が剥がれる状態の方に対し、様々な対策の検討が行われた。現在は、左手をタオルで巻いて予防する対策がとられているが、今後も引き続き、タオルで覆う時間を減らすための検討を続けていく予定にしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については毎年最低1回は内部研修を行い知識の確認を行っている。また、コンプライアンスルールを作り、掲示して会議の場で話し合っている。管理者は時間を決めずに施設内を見回り、言葉遣いやケアの仕方、利用者の状態などを確認している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の制度についての勉強をするが職員に関しては成年後見制度について毎年1回内部研修を行っている。	施設長が社会福祉士でもあり、パンフレットを用いて職員に研修を行い、制度の理解を深めている。ご家族には、入居時に管理者が制度の説明を行っており、制度を利用されている方もおられる。「施設長が後見人もされているので、制度の事は何でも相談をしてくださいね」と伝えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取り、契約内容を理解してもらうよう努めている。また質問や疑問、要望に関してはいつでも受け付けていることもお知らせしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な相談窓口を教えてある。また、年2回家族へのアンケートを取っており、要望があれば検討し、運営に反映させている。	ご家族が意見を伝えやすい環境を作っている。面会時等に「外で過ごさせてほしい」「畑仕事をさせてほしい」等の要望を頂き、主になって畑を管理して頂き、敷地内の薬局への買い物やドライブの回数を増やす等の対応を続けている。ご家族が敬老会の出し物をして下さる方もおられ、職員も嬉しく思っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議時に話し合っている。	日々のケアの中で、職員から色々なアイデアが出ている。“ドライブに行こう”と言われるご利用者に対して、外出場所等の検討をしたり、敬老会等の企画も職員が積極的にを行い、知り合いのボランティアの方を紹介してくれるなど、前向きに行事企画に関わっている。チームワークも良く、意見が言いやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回査定があり、管理者や職員の勤務状況を把握し、各自が向上心を持てるよう賞与や時給を個別に査定してる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	勤務時間が大幅に増え過ぎないよう人員の確保をし、残業にあたっては残業指示書を書き、サービス残業などにならないようにしている。	20歳代～60歳代までの男女の職員が勤務している。採用時は、“ゆったりとした人”でホームの環境に馴染める方や“向上心のある方”なども大切にしている。採用後は、パソコンが得意、和裁が得意、畑仕事が得意、塗り絵や切り絵、料理が得意など、職員の得意分野を發揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にもあるように、「人として愛され」ることを常に念頭に置くよう指導している。	施設長と管理者は、日々のケアやミーティング等で、「ご利用者を自分の肉親だと思って接してください」と伝えている。健康管理にも重点を置き、良く観察をするように伝えている。コンプライアンスルールも作り、「言葉かけ」などの具体的なルールが明記されており、気になる言動が聞かれた時は、注意が行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年最低1回は全員外部研修を受け、またその伝達講習を行うことにしている。2カ月に1度法人内で事例検討会を開催し、各部署で交代で事例発表を行う。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会に入会しており、研修に参加したり、地区内の事業者との交流を行っている。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やゆとり庵入所前の施設、病院等からアセスメントや直接担当者から情報を集め準備を整えて本人からの要望を聞いている。また、声かけを行い、利用者の言葉を傾聴し、談話しながら関係づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込や見学に来られた時から困っている事や不安など相談に乗り、契約時、入居後も面会時には不安の無いように利用者様の状態を報告している。また、スタッフも家族と談話することで関係ができてくるので挨拶や会話を心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者情報を検討し必要な支援がグループホームではなかった場合は他の事業所を紹介、助言している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは手伝ってもらい、(洗濯物干し、たたみ、茶碗吹き、掃除、畑仕事等)ふつうに感謝の言葉を述べている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現状報告を行い、ゆとり庵で困っている事を家族の協力で解決することもある。面会時には家族からの申し出がない限りはお茶を出すくらいで水入らずで過ごしてもらおう。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に依頼して本人の希望を伝えることはあるが、こちらから連れていくことはあまり出来ていない。	自宅がお寺の方もおられ、お寺の桜を見に行かれたり、スタッフが送迎し、兄弟の家に遊びに行かれた方もおられる。地域のお祭りに参加することで、馴染みの方とお会いする事も多く、お話ができる機会も作られている。入居前の近所の方や知人の方も面会に来て下さっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも相性の良い人悪い人、それぞれの関係をスタッフはある程度把握しているので出来る限り穏やかに楽しく暮らせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが死亡退所であるが、退所後も家族が訪ねてこられ利用者様の事を懐かしく話題にされることがある。共に思い出を語り過ごしたりする。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	飴などが好きな利用者には(これが生きがい、と言われる)おやつ以外にも一日の上限を決めて(10個)渡している。	意志疎通が難しい方は、表情や行動から気持ちを汲み取るようにしており、1対1で、ゆっくり手のマッサージをすることで、言葉が増えてきている方もおられる。散歩や入浴、お茶会の時等に、ご本人のお気持ちや希望を伺っており、“働きたい”との意向の方には、料理や配膳等の役割を担って頂いている方もおられる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取りで晩酌を習慣にされていた方には無理にならず、本人が満足する量で飲んでもらう。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	半年ごとにアセスメントを更新し、また、状態に変化が見られた時は会議の場で確認している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族、主治医の意見を参考に甘いのものを欲しがらる利用者に飴の個数や渡すタイミングを図った。	アセスメントは担当職員が行い、月1回の会議の時に院長先生と施設長等も同席され、全スタッフが話し合いを行っている。計画はケアマネが作成しており、“布パンツを使用しトイレで排泄”など具体的な目標が作られ、“配膳・下膳”“洗濯物たたみ”“畑仕事”などの役割も盛り込まれた。計画のもとで、日々実践頂いている。	計画の中には、ご本人の“できること”や“役割”も増えてきている。自立支援の視点で計画が作成されてきているが、24時間の生活の中で行われているケア内容を記載するためにも、3表も活用していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の気付きを毎日記録している。毎日の午礼時や毎月のケア会議で情報を共有したり問題点を検討しあったりしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、不穏が続き錠剤を服用しなくなった利用者には、薬剤師に安全性を確認の上、粉碎して服用させることもある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議時に民生委員や地域のメンバーに写真を見てもらったり、祭りや行事の時に紹介して顔を覚えてもらっている。また、散歩の時にも地域の人たちにこちらから挨拶をして出来るだけ顔を覚えてもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に主治医との面談を行い、十分に説明を行い、質問を受けている。状態に変化が見られ、主治医の説明が必要な時には、その都度主治医より説明がなされている。	院長先生との情報交換は“ドロップボックス”を活用し、随時情報共有ができており、毎月の会議には院長先生や薬局の職員も参加し、医療面やケアに対する指示を頂いている。週1回の往診結果の報告の仕方でもご家族と話し合っており、受診内容の共有もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と訪問診療、受診時の報告や申し送りノートを使用し連携を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院や退院後の受け入れ先を探している病院のSWから電話での問い合わせがありそういった時に互いの情報交換を行ったり、利用者の受信時に情報交換をしたりと関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にはターミナル期であることは知らせないが、家族には主治医からの説明と同時に介護についての説明を行い同意、協力をお願いしている。	入居時から、“終末期の方針”について説明し、ご本人やご家族の意向を確認している。「最期までここで…」と言われる方が多く、この2年で8名のご利用者の看取りが行われた。医師より、ご家族への説明が随時行われ、毎日の往診も行われた。終末期に、親族や友人との面会を実現できた方もおられ、干し柿等、最期まで好きな物を食べて頂いた。	タクティールケアも活用しながら痛みの緩和に努めると共に、痰が絡む事での苦しさを和らげるためにも、制度に添いながら、介護職も痰の吸引ができる体制作りを整えていきたいと考えている。褥創を作らない研修も含めて、知識と技術の向上を続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時にヒヤリハットや事故の記録を検討し緊急マニュアルを見直し、応急手当てなどについては実際に各自行って、時間のある時にスタッフ間で話し合っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をし、その都度反省点などを出しよりスムーズに避難できるよう検討努力している。	年に2回、避難訓練を行っている。22年11月には消防署の方に消火器の使い方の指導を頂きながら、誘導所要時間の測定も行われた。敷地内の医院や薬局の職員への協力依頼を行っており、災害時の協力体制は整えられている。災害に備え、非常食の缶詰や乾パン、水等の備蓄がされている。	火災時の近隣の方々の応援依頼は行われている。今後は、防災訓練への参加のお願いを続け、近隣の方々との連携を強めたいと考えており、災害時に活躍する“自転車”の購入も検討されている。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する言葉掛けに注意しひとりひとりに声かけを心がけているが、なかなかゆっくりと全員に話を聞いてあげられない。	かつて教師だった方には、「〇〇先生」とお呼びする等、馴染みの呼び名で呼ばれている。個人情報 を漏らさないこと、言葉かけに配慮することなどの指導が行われており、入浴時等はタオルを前に当てる等、羞恥心への配慮も行われている。	入室する際には、今後も全てのご利用者に対して了承を得るように徹底していくと共に、言葉遣いへの配慮も継続していきたいと考えている。職員全員で、理念の中の“人として”と言う解釈の仕方の振り返りもしていく予定にしている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望で外出や買い物などあるが、全てに応えることは出来ていない。特に自宅へ戻りたいとの希望は家族の思いもあり難しい。ゆとり庵が本人の一番安心出来る場所となるよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にしたいが職員の数によっては対応できないときもある。できる限り散歩に出たり、ドライブしたりと希望に添えるよう努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って毛染めをしたりカットをしたり、化粧品を購入しに付き添ったりしている。更衣に関しては、寒暖の調節には助言するが特に奇妙でなければ本人の希望通りにしてもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共にその能力や希望に応じて一緒に食事の準備や片付けをしているが、同じような人になってしまうので出来る人、したい人にまんべんなくしてもらえるようにしたい。	同系列の小規模多機能の栄養士が献立を作成している。畑の野菜を皆で収穫し、調理の下ごしらえや配下膳、食器拭きなど、ご利用者が“できる事”をして頂いている。“がめ煮”や“うなぎ”などの郷土料理も食べられており、日々の食事を楽しんで頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量やバランスは一人一人の状態に対応している。水分量も把握し、脱水にならないよう支援している。希望に応じて寝る前にペットボトルにお茶を入れて渡している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で出来る利用者には声かけし、できない利用者には義歯を外してもらいまたは外させてもらいうがいしてもらっている。義歯はその都度歯ブラシで清掃しているが一週間に一回薬を使用して除菌をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめに声かけを行い、トイレ誘導を行っている。夜間もなるべくトイレに誘導している。	排泄間隔を個別に把握し、トイレ誘導を行っている。失禁が無い場合は、日中はおむつを外し、夜間も睡眠を妨げない程度にトイレ誘導し、おむつの使用頻度を減らしている。トイレへの誘導用の替え歌を作り、その歌を唄いながら自然にトイレに行けるようにする等、楽しくトイレを利用できる配慮も行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳をコップ一杯のんでもらい、そのほかにも十分な水分を摂取してもらっている。オヤツにさつまいもなど繊維質のものを取り入れたりラジオ体操を毎日行っている。毎日排泄のない利用者にはトイレ誘導時に腹部マッサージを行い排泄を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には日時が決まっているが、その時の状態により決められた時以外でも入浴、シャワー浴、部分浴、清拭を行なっている。	季節に応じて菖蒲湯等を行い、隣接する通所施設の大きな浴槽で入浴を楽しまれる時もある。入浴を拒まれる場合も声かけを工夫したり、別のご利用者と一緒に風呂場に行き、一緒に入る等の対応もしている。ここは“ゆとり庵温泉よ”とお風呂までご案内下さるご利用者もおられ、入浴を楽しまれている様子が伝わってきた。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に臥床したい利用者には臥床してもらえただけ食事やオヤツ時には離床を促している。寝つきの悪い利用者にはアロマオイルをしょうしてタッチケアを行いゆったりとした気分で入眠できるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬に関しては、薬剤情報ファイルにて理解し、確認し合っている。また薬が変わったときには看護師に確認しその後の変化に気を付けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者に合わせて家事手伝いなどしてもらい、感謝の言葉掛けを行い、自己有用感を感じてもらうように努めている。また、誕生会やお茶会、クリスマス会やお正月のお祝いの会を開き、楽しんでもらっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じてドライブなど出かけている。	ホームの庭の芝生の上にベンチを置き、日光浴や団らんの時間を過ごされたり、天気の良い日には散歩に出かけている。「ドライブに行きたい」と言う声も多く、四季折々の花見(桜・ひまわり・ゆり)や佐賀空港、ゆめタウンでの買い物等にも行かれている。地元の足湯に行き、馴染みの方と会話を楽しまれたり、あめんぼセンター(資料館)に、津軽三味線のコンサートにも行かれた。	散歩の時に近くの神社まで行かれることもあるが、敷地内の散歩コースを1周して、満足されたり、疲れてしまう方もおられる。今後も地域の方との出会いを楽しむためにも、地域に出での散歩の機会を増やしていきたいと考えられている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の程度が軽い利用者には貸し借りをしないという条件で少額の現金をしょじしてもらっている。本人が行きたい時に近くの薬局や自販機で買い物やされている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を取り、希望があれば電話をかけてもらっている。また、手紙が届くことはあるが返事は電話で行うことが殆どであるので今年は年賀状を出すよう企画している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングなどに季節の花をかざったり、農作業をしている人形などがざり、季節感を出している。	ホームの窓からは敷地の中庭が見られ、四季折々の自然を感じるができる。リビングは床暖房であり、テレビを見ながら内容について話したり、昔話から童謡や唱歌を歌ったりされている。廊下の壁に季節ごとの飾りつけをされており、ご利用者の作品である、折り紙や塗り絵なども飾られている。玄関等には、車椅子の利用者用に簡易スロープも購入されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室で仲の良い利用者同士で話ができるよう努めている。逆に不穏なときは他の利用者から離しておちついてもらったりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのものを持ち込んで欲しいと要望するがあまり持ち込みはない。慣れた枕でないと寝つきが悪い利用者は枕を持ち込まれた。	ベッドやカーテン、照明や収納はホームの備え付けであり、入居時にはご家族に協力して頂き、自宅に使っていたタンスや座イス、ご家族の写真など、馴染みの物を持ってきて頂いている。散歩の時に積んだお花を部屋に飾ったり、ご本人への手紙も飾られており、思い思いのお部屋となっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室と共用の部分があるが、居室はプライバシーを尊重し、出来るだけ自分の好きなようにしてもらっている。散らかった場合は、利用者と共に整理している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名: グループホーム ゆとり庵

作成日: 平成 23 年 12 月 22 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ゆとり庵の方から出かける機会は増えたが、特定の人に限られるため、他の利用者は地域の人達との交流を楽しむことが困難である。	こちらから出かけていくことは勿論だが、地域の人達がゆとり庵を訪問する機会を増やして、利用者、スタッフとの交流を深める。	子供会に働きかけゆとり庵に遊びに来てもらう機会を設ける。	12 ヶ月
2	37	防災の観点から、特に夜間の火災に対する近隣の協力体制が整っていない。	近隣の人達への声かけでの協力依頼は行っているが、具体的にゆとり庵の建物の構造や入居者の顔なども知ってもらう機会を作る。	祭りや防災訓練への参加をお願いする。また、利用者を知ってもらう一助として地域運営推進会議への利用者の参加を試みる。	12 ヶ月
3	38	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保については毎年会議の場で話し合っているが、スタッフの入れ替わりによりないがしろになっていることがある。	利用者の人格とプライバシーの確保については徹底して行う。特に声かけは、親しくなってくると命令口調や年下の者への口調になることがあるので改善する。	毎月の会議で必ず触れること、また、現場に直面したら互いに注意しあうこと。人権に対する意識を高めるための内部研修を行う。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月